プリンセス
小公女セーラ

第19話

『インドからの呼び声』

AR台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第一九話『インドからの呼び声』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン先生……………中西妙子
アメリア……………梨羽由記子
ベッキー……………鈴木三枝
ピーター……………坂本千夏
ラビニア……………山田栄子
ジェシー……………飯塚はるみ
ガートルード……………佐々木るん
ロッティ……………渡辺菜生子
アーメンガード……………八百板万紀
ジェニファ……………神田和佳
モーリー……………向殿あさみ

ジェームス……郷里大輔

バロー……藤本譲

リンダ……

馬方……

水夫Ⓐ……

水夫Ⓑ……

水夫Ⓒ……

船員Ⓐ……

船員Ⓑ……

船員Ⓒ……

船員Ⓓ……

船長……

郵便屋……

カメラ	画面		音声
1	畳を洗うセーラ		
2	洗うセーラの手 ブラシを持った手、上へあげる A・C		
3	セーラ、馬穴にブラシを入れ、二、三回ザバザバっと洗って、引き抜きゴシゴシと洗いだす、ひたいを拭い空を見上げる		
4	空を舞う鳥		
5	見上げているセーラ、心地よさそうであるー、又顔もどして仕事を始める		
6	ブラシを置いて仕事しながら道路の方へ出てくるセーラ 起き上り 大きくのびをする A・C		

A・C			
7	のびをするセーラ 「？」となって 下を見る		
8	シーザーも大きくのびをしている、う〜となりのびをやめて怪訝そうなポーズをとる		シーザー「う〜ニャー」
9	「ん？」となり手をおろすセーラ、下手の方に振り返る 配達人カバンを開けて手紙の入った袋を渡す、セーラ袋を受取る、受取も渡す セーラ玄関の方へoutする		配達夫「郵便だよ、この袋全部ミンチン学院の分だ」 セーラ「御苦労様！」 配達夫「受取り頼むよ」 セーラ「はい！」
10	シーザー、配達夫に近づきにらむ		
11	びっくりする配達夫		
12	シーザーくるりと手前を振り向		

Scene	Action		
	き走って out する		
13	扉をあけて中へ入っていくセーラ、シーザー走ってついていく閉るドアにゴッン、逆立ちになる、落下するシーザー		シーザー「フギャー！」
14	手に行囊（こうのう）をもって手前にくるセーラ、扉（院長室）の前に来てノックする、扉開いてアメリア姿見せる		
15	チョコンと頭を下げるセーラ アメリア、行囊と紙片をセーラから受取り部屋に入って行く		セーラ「アメリア先生、郵便が届きました」 アメリア「はい、御苦労さん」 セーラ「受取りにサインが欲しいそうです」 アメリア「はい、判りました…」
16	机で書きものをしているアメリアの後に来るアメリア振り返りメガネをずり上げたミンチンに紙片を渡すアメリア、テーブルの方へ行くアメリア out		アメリア「お姉様、おねがいします」

	する、ミンチン、紙片を見る	
17	行嚢を開けて中の書信や小包を出すアメリア、その束になった手紙を手にして「？」となるアメリア、束を裏返して見て「アッ」となる、ミンチンの方を見るアメリア、びっくりして呼ぶ	アメリア「お姉様……?!」
18	振り向き立ち上るミンチン、ペンをペン立てにもどして	ミンチン「う〜ん!!」
	A・C	
19	振り返るミンチンの前に手紙の束をもって来るアメリア 手紙の束を受取り裏返して見る 口をゆがめて（いやらしい笑い）にやりとする	アメリア「……あの…これを…」
20	アメリア、かすかに「はっ」となってうかがうように…（ミンチンは手紙の束を見ている）	アメリア「……どう……致しましょう」
21	ジロリとアメリアを見て	ミンチン「……あなたは生徒達に来た手紙を、

	と、紙片を差し出す		配りなさい」
22	アメリア、怪訝な面持ちで紙片 を受とる		アメリア「は……はいお姉さま…」
23	待っているセーラ、扉開いてア メリア出てくる、セーラ前に出 る、行嚢と紙片をセーラに渡す アメリア		アメリア「郵便屋さんにこれを…」 セーラ「はい……アメリア先生!!」
24	郵便屋、あたりを見回しながら 待っている、郵便屋扉口の方を 見る、セーラ小走り、来る、行 嚢と紙片を郵便屋に渡す 行嚢と紙片を肩かけ袋にしまい 明るく手を上げて去る、見送る セーラ		S・E（扉の開く音） セーラ「ごくろうさまです…」 配達夫「有り難とう、メイドさん」
25	裏庭に雀が遊んでいる 列車が行く		S・E（ポー）
26	学院の裏口、雀が遊んでいる 窓にT・U		アメリア(off)「皆さん!! お手紙を配ります― 集って下さい!」

27	窓ごしに見えるアメリアを中心 にした生徒たち、手紙を配って 貰おうとわいわいしている		生徒たち「先生、早く…」 「まってたのよ!!　お手紙…」 「わいわい、がやがや…（etc）」 アメリア「静かに……はい…ラビニアさん」
28	笑い顔で手を上げるラビニア、 アメリアの方を向く アメリア、手紙を手渡す ラビニアちょっと見て左右をへ いげいする、アメリア次の一通 を（絵はがき）を取り上げ見て ロッティの方を向き絵はがきを 差し出す、前に来て元気に絵ハ ガキを受とるロッティ		ラビニア「ハーイ!!」 アメリア「お母様からよ」 生　徒「（嘆声）わー、うらやましい…… 私はだれからかしら…（etc）」 アメリア「……次は…ロッティ…」 ロッティ(off)「ハイ…!!」
29	飛びはね喜こぶロッティ 周りの生徒、にこにこと見る ロッティ隣りのペネラビにも見 せるー、笑い顔でのぞくペネラ ビ		ロッティ「わあ…イ、パパからの絵はがき! わあ…イ、わあ…イ」
30	アメリア、アーメンガードにも 包を渡しながら		アメリア「アーメンガードは、お父様が本を送 って下さったわ」

	うんざりした顔をするアーメンガード、回りの生徒たち笑う		アーメンガード「え…?!　また本…!」 生徒達「フフフ……」
31	どっと笑うラビニアたち		ラビニア、ジェシー、ガートルード「フフフ…」
32	笑う子供たち、包をかかえて渋面をしているアーメンガード		ドルシア、ジェシー「フフフ……」
33	にぎやかに笑う一同、教室の扉開いて馬穴をもったセーラ出てくる（モップを二本もっている）……ベッキーも馬穴をもって出てくる（扉をしめる）		アメリア「ジェニファ……」 ジェニファ(off)「ハ……ハイ!」 声「先生、私のまだあ…」 「早くして……（etc）」 「（ADLIB）」
34	セーラ、ベッキーと目を合せる 二人生徒たちの方を見る		アメリア(off)「リンダにもよ…」 リンダ「ハーイ」
35	手紙を貰い喜びはねるもの、一人にんまりするもの、のぞきこみうらやましがるもの etc アメリア、ちらっとセーラの方を見る		声「わいわい、がやがや（ADLIB）」 アメリア「まだ、あるわよ……わーすごい、貴方は三通も来ているのね」

36	淋しげな顔のセーラ、ベッキー 生徒を見ていたがセーラを見て 「はっ」となり 「はっ」となりベッキーを見つめ淋しい微笑をするセーラ 重そうに歩き出すセーラ、outする、悲しげな表情で見送っていたが前へ出るベッキー、outする	ベッキー「セーラさん」 セーラ「……心配しないで、私のところにどこからも手紙が来ないことは知っているわ……さ行きましょう」
37	喜んでいる生徒たち アメリア扉の方へ向う、わいわいがやがやいいながら去る一同 三人組は一番後からoutする	アメリア「さあ、これで配り終りました」 声「わいー!! お部屋でよもう…（etc）」
38	扉をあけセーラの方を見るアメリア、アーメンガード、ロッティの肩に手をかけて階段の方へ行こうとするとロッティ、セーラに気づき、絵はがきをひらひらさせて手前に走るロッティ、アメリア、部屋に入る	ロッティ「あ……っ、セーラ、ママ……!!」
39	ラビニアたち三人振り返る	

40	セーラの前にごきげんになって絵ハガキを見せるロッティ のぞきこんでにっこりするセーラ		ロッティ「……パパからよ…!!」 セーラ「………」
41	？　となって顔を上げる二人 いやみたっぷりに手紙を振る三人		ラビニア(off)〜(on)「フフフ……あら……お気毒ね……誰からも手紙が来ないなんて…」 ジェシー「無理よね…誰も身内がいないんですもの…!」
42	唖然とした顔で見るアーメンガードたち		
43	見つめる三人、顔を見合せ笑いくるりと背を見せて階段を昇る 冷笑しながらジェシーとカートルード手紙を見せびらかす		三　人「フフフ……」
44	茫然と見送る三人、うつむいていくセーラ　T・U 口唇をかみしめているセーラ ちらりと目線を上げるセーラ		三人(off)「フフフ……」 S・E　（扉のひらく音）

45	出てくるミンチン、チラリとアーメンガードを見てから手前を見るセーラを確認して		ミンチン「セーラ……お前に手紙が届いています」
46	「はっ」となるセーラ キョトンとセーラを見る二人		セーラ「え……!!」
47	思わせぶりの表情のミンチン		ミンチン「インドからですよ!!」
48	セーラ「はっ」となり、喜びに溢れるセーラの顔― モップの柄、落ちる		セーラ「イ……!! ……インドから……!!」
49	足許に落ちるモップ		
50	握りしめた手震えている T・U　喜びに震える口唇、こみ上げてくるうれしさのセーラ		
51	ミンチン、口をゆがめ「フン」といった表情で ミンチン、中へ入り扉をしめる		ミンチン「……あとで受取りにくるように…」 S・E　(バタン)

52	うれしいセーラ		ロッティ(off)「セーラママ…〜 インドからって……誰れから…」
53	茫然としているセーラの前に回りスカートを握りしめるロッティ、アーメンガードと来る、ベッキーもセーラをのぞきこむ		アーメンガード「……まさか…お父様が…」
54	宙を見つめるセーラ		
55	スカートを握りしめてセーラをじっと見上げているロッティ		
56	凝っと見つめるアーメンガードとベッキー		
57	立ちつくすセーラを見つめる一同		
58	気を落ち付けるように大きく深呼吸して目をつむりじっとうつむく、目を開け、扉の方を見る		セーラ　「フ――…ハー！」
59	「はっ」となってスカートから		

	手を離すロッティ、歩き出すセーラ、避けるアーメンガードたちの前を歩いてoutして行くセーラ、見送る三人		
60	歩いて扉の前に立ち止まるセーラ、口唇をかみしめ目をつむる		
61	―間― 目を開け扉を見つめてノックする（三回） 扉を開けて入っていくセーラ、扉閉める、じっと見つめる三人		ミンチン(off)「……お入り…!!」
62	椅子に座って手紙の束を見つめるミンチン、そのそばに立ち、手前を見るアメリア、目がうるんでいる、アメリア、うつむくミンチン、アメリアを見て、振り返り扉の方を見る		
63	扉の前に立ってうつむきぎみにいるセーラ		

64	顔をそらしてうつむいているアメリア、目に泪が浮んでいる、振り返ったまま凝っとセーラの方を見つめているミンチン		
65	うつむいて立っているセーラ、じっと見つめているミンチン立ち上りテーブルの方にあるいて来る、立ち止り、ポンとテーブルの上に手紙の束を投げ出す		
66	テーブルの上にのる手紙の束		
67	「はっ」となって見るセーラ		
68	冷たい目付でセーラを見つめるミンチン		ミンチン「……これがインドからお前に届いた～手紙です」
69	身をのり出して見るセーラ、ミンチンを見て軽く会釈してテーブルに寄り、手紙を取り上げる束を見つめるセーラ、表と裏を見て確かめる		

70	破れいたんでいる手紙の束、愕然となり息をのむセーラ		セーラ「ハァー」
71	口唇をゆがめて見つめるミンチン、後で泪を浮べたアメリアがつらそうに顔をそらす		ミンチン「フッ！」
72	セーラ、口唇を震わせ凝っと見つめていたが、胸に束を抱きしめ目を閉じる、震える手		
73	ミンチンの口唇がいやらしくゆがむ、小さく震えているセーラじっと冷たく見つめているミンチン		ミンチン「そう……その手紙は、全て、以前、お前がインドの父親宛てに送った手紙です」
74	こみ上げてくる悲しみ、手紙を抱きしめ嗚咽をこらえるように顔を横に向けるセーラ、震える肩		
75	泪をこらえていたが、一条流れ落ちる、ハンカチで泪を押さえ		アメリア「きっと……お父様が亡くなったあと

	るアメリア、背を向けてしまう		向うへ届いて…… ～
76	懸命に嗚咽をこらえるが、う～ 胸の前でじっとハンカチを強く にぎりしめながら		……受取人のないまま……またはるばる インドから……送り……」
77	セーラ、手紙を握る、手が悲し みに震える		アメリア(off)「返されて来たのよ……」
78	セーラをじっと見つめるミンチ ン　T・U		ミンチン「さ、これでインドにいたお前の父親 が……もう生きていないんだって事が ～
79	悲しみのセーラ		(off) はっきり呑み込めたでしょう…… ～
80	ミンチン、冷たく言い放つ		……お戻り……！」
81	やや横向いていたセーラ、ゆっ くりとミンチンを見つめて、目 を伏せる、くるりと背を向ける		
	A・C		
82	ミンチンに背を向けるセーラ、 ミンチンの口がゆがむ……（フ		ミンチン「フン！」

	ンという感じです）その瞬間、 バッと手前に駈け出すセーラ、 じっと見つめるミンチン		
83	うつむいていたアメリア 「はっ」となって振り返るアメ リア、目に溢れる泪で見つめる		S・E（ガチャ、扉の開く音） S・E（バタン、扉の閉じる音）
84	扉に背をもたせかけて宙を見る セーラ		
85	三人「はっ」となって見つめる 三人の前を駈け抜けていくセー ラ、啞然と見送る三人		S・E（駈ける足音）
86	地下への階段を走り降りていく セーラ		
87	茫然と立ちつくす三人 ロッティ「はっ」となって手前 に走る		S・E off（足音）
88	階段の手摺りにつかまり止る、		

	ロッティ、下を見つめている		ロッティ「セーラ……ママ……!!」
89	力なくうつむく、絵はがき、手から舞い落ちる		
90	ひらひらと舞いおちる絵はがき一度は止まるがすべり落ちる		
91	テーブルの上に散らかっている手紙、泪がぽとりぽとりと落ちてしみを作っていく		セーラ(off)「ううう……」
92	泣いているセーラ、頰を伝い下に落ちる泪		セーラ「ううう……」
93	テーブルに寄りかかり泣いているセーラ、肩の力が抜け前にガクっとかがみこむ、ひざが前に折れる		セーラ「うううう……えーーん」
94	足がすべって行き、崩れ落ちひざを石畳につけるセーラ		

95	テーブルに手をかけ嗚咽するセーラ		セーラ　「うう、おう、ううう…」
96	肩をふるわせて泣くセーラ T・B		
97	静かに扉開いてベッキーが部屋に入る、凝っと見つめたまま後手で静かに扉をしめて、二、三歩前へ出て止る		
98	しばらく立ちつくすベッキー ゆっくりと振り向くセーラ		ベッキー「……お嬢様……」
99	顔を戻すセーラ、手紙を見つめて泣き声で、乗り出してテーブルの上を見つめるベッキー、手紙を集めるセーラ		セーラ　「ベッキー……これは…お父様に出した……私の手紙なの…」 ベッキー「え…?!」
100	手紙を抱いてくずれるセーラ		セーラ　「……私…お父様が亡くなった事も知らないで……ずうっと…… 〜
101	ベッキー、じっと聞いていて震		ずうっと……手紙を書いて

	102	103	104	105	106	107
えてくる口唇	ベッキーのスカートを握る手震えている、セーラ、手紙をひしと抱く	セーラ、ひしと手紙を抱き手紙をきつく握りしめて折れ曲る手紙	ベッキーの目に浮ぶ涙 ぱっと前に A・C	セーラの膝に崩れるベッキー 泣くベッキー	二人、涙の顔を見合す 二人の顔に涙がどーっと流れる セーラのひざに崩れるベッキー 泣き伏すセーラ	抱き合って泣く二人　T・Bする
出していたの……う…うう…‼」		セーラ「……う、う…う……‼　私の書いた手紙……お父様に読んでもらえなかった、手紙を…う…う…う…」	ベッキー「……お…お嬢様‼」	ベッキー「う…う…う」 セーラ「……ベッキー…‼」	ベッキー「お…お嬢様‼」 セーラ「…ベッキー！」	

108	鍋が湯気を上げている		
109	廊下で呼んでいるモーリー モーリー、セーラに仕事を言い告げる		モーリー「セーラ……ベッキー!!」 ベッキー(off)「ハーイ…! モーリーさん」 S・E (扉の開く音) モーリー「セーラは…」 ベッキー「掃除が終ってアイロンかけです」 モーリー「セーラ! 市場へ行く時間だよ!!」 セーラ「ハ……ハイ!!」
110	学院の玄関先、セーラ、篭を抱えて出てくる		
111	街、ハンサム馬車が行く 買い物に行くセーラ		
112	セーラが行く		
113	考えながら歩くセーラ ↖FOLLOW		
114	轟音をとどろかせて列車が行く PAN・DOWN		S・E （ポーーッ）

	橋架の下をセーラが来る		
115	物想いにふけりながら歩くセーラ FOLLOW←		
116	ボロ靴のセーラの足がいく ←FOLLOW 途中で立ち止る足		
117	行き交う人々 セーラ、凝っと考えながら進む ―間―　「うー」となって顔を上げて見る		
118	小走りに右の方へ行くセーラ		
119	小走りに行くセーラ 明るい表情　↖FOLLOW		
120	バローの弁護事務所 セーラ来てノックする ほどなくして事務員現れる 扉を閉めて再び中に入って行く		S・E　（コン、コン、コン）

	待たされるセーラ		
121	書類を見つめながら、返事する バロー		バロー 「う〜ん…入れてやりなさい!!」
122	事務所内、扉開いてセーラ入っ てく、閉る扉 （※以后のバローさん、分別を もった大人です、おだやかな物 ごしで対応する） 入って来て止り、軽く会釈する セーラ セーラ、元気良く返事する バロー、用件をたずねて セーラ、必死にたずねる		S・E （ガチャ） セーラ 「今日はバローさん」 バロー(off)「うん…元気にしているようだな…」 セーラ 「ハイ……」 バロー(off)「で…今日は……」 セーラ 「私……お父様の最后のこと…うかがいに来たんです」
123	振り返るバロー じろりとセーラを見つめる		バロー 「う〜ん…、その話か…」
124	前に出てくるセーラ		セーラ(on)〜(off)「お願です、バローさん、お父様 が亡くなった時の様子を詳しく 〜 聞かせて欲しいのです!」
125	セーラ、バローに近づく		

	手前に来るバロー 暖炉には火がある	バロー　「今更、その様な話を聞いたからって 〜 今のお前が変る訳じゃないんだぞ」
126	書類をテーブルに置いて、じろじろとセーラを見つめる	
127	セーラ、うなづき淋しげな顔で答える 凝っと、バローを見つめる	セーラ　「はい……判っています……でも、それだけは知りたいんです」
128	ジロリと見つめ考えるバロー	バロー　「ウーム」
129	見つめるセーラ	
130	考えるバロー　T・Bすると、見つめるセーラ	
131	天井のシャンデリアからPAN・DOWNすると、考えながらダンロの前にくるバロー 考えていたが振り返る	バロー　「う〜ん…… いいか、セーラ、お前の父親は昔の親友とかに騙されて、全財産を、そいつ

			のボロ鉱山につぎ込んで 〜
132	手を握りしめきいているセーラ		(off) 破産しちまったのだ…」 セーラ 「騙されたんですって…？」 バロー(off)「そうだ… 〜
133	横を向き、うつむきかげんに、話すバロー		お前の父親は、なんとかダイヤの一粒 でも見つけようと 〜
134	凝っとバローの話を聞き入るセーラ 一歩、身を乗りだす T・U		そのボロ鉱山に入りこんでな……たち の悪い熱病にとりつかれて、たった三 日で死んだそうだ」 セーラ 「では、そのお友達とかは……今どこ に……」
135	ローラ、興味を持ってたずねる バロー、淡々と話す		バロー 「判らんのだ」 セーラー 「……名前は…？」 バロー 「忘れたよ……そんな男の名前など、 憶えておく値打ちもないのでな」
136	口唇をかみうなだれていくセーラ		

137	ダンロの火、石炭が崩れる		
138	時計の音がこつこつとひびく		S・E　（コツ、コツ、コツ……）
139	バロー、セーラの方を向いて		バロー　「……私の知っているのは……それだけだ……なにしろ、問い合わせの手紙を出しても、往復で五十日はかかるインドの奥地だ、費用もかかるし ～
140	うなだれていたが、ゆっくりバローを見るセーラ くいいるように……　T・U 口唇をかみしめ、うつむいていくセーラ		(off)　……正直いって私も諦めるしかなかったのだ……」

〈　Aパート　・　おわり　〉

141	ユベントローデンマーケット うつむいているセーラ 空き箱に腰を下ろしている 傍に買物の野菜が入った籠―― 前にポケットに手を入れ得意そうにセーラの前をうろつくピーター、いろいろと不満足げである 足許の野菜屑を足で蹴る		ピーター「……そう、何の役にもたたないんですか……あの弁護士……！　畜生!!」
142	水を呑んでいた馬の顔にあたる野菜屑 驚ろいて、顔をもち上げる馬		馬「ブル～～～ン！」 馬「ヒヒヒーヒヒーン」
	A・C		
143	首をもち上げる馬、傍の馬方あわてる 馬の首筋をなでる、野菜屑を取る		馬方「オッととと……」
144	しまったといった顔で首をすぼめ、くるりと背を向けるピーター		ピーター「ウッ！」

145	くるりと背を向けたピーター 口笛を吹きとぼけたポーズをと る。行き交う人々 馬方、怒っていたが誰れかわか らずくずを踏みつける	
146	セーラ、注意するような目でに らんでいたが――ブーと吹き出 すがあわてて、口をおさえる セーラ	セーラ　「プ――ッ、 フフフフ……」
147	照れ隠しの笑い	ピーター「エヘヘヘ……」
148	手前を大きく、荷物をつんだ荷 車が通過して行く 行き交う人々がいる 奥にセーラ、手前に立っている ピーター ピーター、イライラしてプンプ ンしている セーラ、ピーターの方を向いて 説明する（セーラ真面目にピー	ピーター「弁護士だったら……お嬢様の為に、 お父様の様子を確かめるのは当り前じ ゃありませんか……」 セーラ　「でも……それには時間と費用がかか るんですって……」

	ターに答える）	
149	不満げな顔付で	ピーター「でもさ……！　代理人はそれでもやんなくちゃいけないんじゃないの…！」
150	ピーターを見つめ口をかみしめるセーラ（「そうかも知れないわ、でも私にはもうどうしようもないの」という気持のセーラ）	
151	強く握ぎられていくスカート	
152	じっと見つめるピーター ピーターからT・Bすると セーラがいる 柱にもたれて考えこむピーター 手で腰のあたりをいらいらとたたきながら 突然「パッ」となって振り返り 明るい顔でセーラを見て セーラ、ピーターを見る	ピーター「う……ん……」 ピーター「ようし……こうなったら、俺が協力しますよ！」
	A・C	
153	淋しげに笑うセーラ	セーラ「有りがとう、ピーター……でも私に

	ピーターにたずねる		一体なに出来るのか……」
154	元気よく帽子をつかんで、前へ出るピーター、outする		ピーター「出来ますとも……！」
155	?!となるセーラ		セーラ「えっ?!」
156	ピーター、セーラの前に顔を突出して セーラ、身をのり出して ピーターに説明する 首を振るピーター、増々張り切っていく（※ピーターはあっけらかんとしています）		ピーター「……インドへ自分で手紙を出すんですよ」 セーラ「……だけど、お父様に出した手紙は、みんな戻って来てしまったのよ」 ピーター「ううん……インドの警察署に出してみるんです！」
157	「はっ」となるセーラ		セーラ「ハッ！」
158	ピーター、にっこりとして		ピーター「……きっと何か返事があるに違いありませんよ！」
159	喜びの微笑をこぼすセーラ、立ち上り セーラ、表情が明るくなって		セーラ「まあ……ピーター……！ すばらしい！ 私、そこまで考えつかなかったわ!!」

160	照れるピーター、身体をよじり帽子を冠り直して、元気良くセーラをうながす		ピーター「いや……うへへへ……」 ピーター「さ……こうなったら、直ぐ手紙を書くんですよー！」
161	セーラ元気良く頷くが——顔を曇らしてうつむいてしまうセーラ		セーラ「……うん、でも……困ったわ……私お金、持っていないのよ」
162	にっこりとするピーター ぱっと前へ出て		ピーター「ううん……平気平気ですよ!!」
	A・C		
163	「ぱっ」とセーラの手をとるピーター 「じっ」と見つめるセーラ…… 明るくにっこりと叩頭するセーラ、にっこりとするピーター、「はっ！」となり手を見てあわてて手を離して、「ポーッ」と赤くなる 照れて笑うピーターを明るく見つめるセーラ		ピーター「任せて下さい！……俺についてくればいいんです……!!」 ピーター「い……へへへへへ……」
164	教会、鐘がなっている		S・E（カーン、カーン、カーン）

165	ステンドグラスが美しい PAN・DOWNする 教会内部うす暗く、誰も居ない		
166	ローソクの灯る台の奥で司祭か ら封筒、紙、ペン等を手渡され ているピーター、ペコリと叩頭 する……		
167	教会の前、美しく咲くバラの花 を見つめているセーラ 扉口へ姿を現わすピーター 振り返るセーラ、ピーターの方 走る、手前に走るピーター ピーター、ニコニコしてセーラ に近づく セーラ、ニッコリして答える		ピーター「お待たせ……」 ピーター「……ついでにインクとペンも貸して 貰いましたよ」 セーラ「まあ……ピーターったら……」
168	テムズ川 船が行き交う　SLIDE		
169	橋の下を外輪船が行く―― 汽笛をならして　SLIDE		

170	橋の下の道をピーターとセーラがくる		
171	歩く二人、荷物を持つピーター ←FOLLOW　顔を見合わせて二人にっこりする カット尻、右手にもった封筒をもち上げて見るセーラ A・C		二人「フフフ……」
172	封筒を見ながらにっこりする セーラ　FOLLOW↖		
173	ピーター、セーラの方を見てにっこりする　FOLLOW↗		
174	二人歩いていたが、セーラ、ピーターの前に止り、有り難うセーラ、ピーターに礼を言い、たずねる にっこりするピーター		セーラ「ピーター……お蔭で手紙はなんとか書けたけど切手もなしに、どうやってインドへ……」 ピーター「任しといて下さい！　うまい手を考えてあるんですよ」
175	きょとんとなるセーラ		セーラ「えっ?!」

	目をパチクリする		S・E （ボー、ボー）汽笛（外洋航路の汽船のもの）
176	河の方へ目をやるピーター セーラもつられて見る		ピーター「ほら……あれですよ……」
177	手摺に寄ってくるセーラ、つづいてピーター、遠を見つめる二人		
178	手前を河船が航行して行く 奥に碇泊している外洋船のマストが林立しているのが見える		
179	セーラ、ピーターにたずねる ピーター、ニッコリして答える		セーラ「あれは……お父様がインドへ発つ時行ったロンドン港でしょ」 ピーター「ええ、あれだけの船が停まっているんです」
180	船の群れ		ピーター(off)「うまく行けば、インドへ行く船がきっとあるはずですよ」
181	ピーター、セーラ港の方を見て		ピーター「その船員に手紙を頼むんですよ」

	振り返るセーラ、感心して セーラの方を見て、照れるピーター		セーラ「まあ……あなたって、なんて智恵があるの！」 ピーター「……まあね、ウフフフ……」
182	鉄材を積んだ小船が行く ↙FOLLOW　だんだん外洋 船のたまりが見えてくる		
183	船だまり、船が進んで行く		
184	船のマストがある		
185	船がSLIDING←で、ゆっくりと進む		
186	船がたくさん停っている		
187	港、人々が船を待っている 通り過ぎる人々（客達）		
188	船に荷物を積んでいる人々		

189	ワゴンに乗せて運ぶ人が通る あたりを見まわしながら、ピーター、セーラ Fr・in・out する (※ピーターを先頭にして下さい)二人は、うきうきしている ピーター、一瞬人物に気付いて	ピーター「あそこ」
190	ピーター Fr・in して、ピョンピョンと水兵に近づき つれなく、行きすぎる水兵 ピーター笑ってごまかす	ピーター「あのー、インド行きの船乗りさんですか?」 水　兵「違うよ!」 ピーター「エヘヘ!」
191	しょんぼりするセーラ セーラを引っぱって行く、ピーター セーラ引っぱられる Fr・out する	ピーター「さあ、次々……」 セーラ「ああっ!」
192	手を振って否定する 引っ込む out	船　員「違うよ!」
193	うなだれるセーラ	

194	二人、船のところにやって来て見上げて止る		
195	ピーター見上げてたずねる		ピーター「船員さあん、この船はインドへ行きますか？」
196	水夫、身を乗り出して答える		水夫Ⓐ「こいつはアメリカ行きだよ」
197	ガックリするセーラ、ピーターセーラの肩を叩いて引っぱるようにして下手へ out する		
198	二人来て止る、ドナル		ピーター「この船、インドには行かないんですか——」 水夫C「これは北のノルウエイだ」
199	重い足どりで行くピーターの足 FOLLOW↙		
200	水に映る帆船のマストがゆれている、小石が水面を乱すひろがる波紋		

201	渋面であるく二人 FOLLOW↗		
202	重そうに荷物をもちかえるピーターの手 ↗FOLLOW		
203	船が並らんで停泊している ←PAN （密マルチ）		
203A	阜頭の先端に立っている二人 力なく座るセーラ うなだれているピーター		
203B	ポチャンポチャンと音をたてる水、水の照り返しが船の舷側にゆれる		
203C	かたく握られている手からPAN・UPするとセーラの不安な表情		セーラ 「ピーター……これだけ探してもインドへ行く船がいないなんて……」
203D	力なく振り返り見るピーター 汽笛の音、出航して行く船があ		S・E （ボッーッ、ボ〜ッ!!）

	る SLIDING 二人、顔を沖へ向ける		
203E	凝っと見つめている二人 T・B 「ぱっ」と、ピーター振り返り セーラに近づく にっこりとうなづき立ち上る セーラ		S・E　（ボーッボー、波の音激しくなって） ピーター「お……お嬢さま……気をおとさないで……必ずインドへ行く船ありますよ」 セーラ「え……ええ！」
203F	ピーター「パッ」と、セーラの手をひいて走る		ピーター「……さ、元気を出して、探すんです！」 セーラ「え……え……」
203G	止まっている船に走って来る二人 奥へ行く二人		セーラ「船員さん！　この船、インドに行きませんかー!!」 船員Ⓑ「これはスペインだ」 セーラ「この船はどちらの方へ行くのですかー」 船員Ⓒ「アーッ！　オランダだーァ！」
203H	力なく歩いて来て止まり建物に 力なく寄りかかるセーラ―― じっと見つめる、付けＰＡＮ セーラ壁からずり下っていく		セーラ「大変なことなのね、……船を探すこと――」

203I	ピーター、セーラの背を見つめ立っている	
203J	うなだれているピーター	
203K	汽笛の音 顔を上げるピーター、はっとなって前へ出る	S・E（ボーボー）
203L	振り返るセーラ、微笑してうなづき、立ち上るセーラ	ピーター「お嬢さん！ 元気を出して下さい、探すんです」 セーラ「……そう……ピーター、もっと探してみましょう……」
204	ピーター、そしてつづくセーラ セーラ、ちょっとがっかりしている、通りすぎる人々	
205	船上、話す二人 何やら話をしている船長と一等航海士、「ん」となる二人	ピーター(off)「すいませ〜ん、この船はボンベイ
206	ピーター、たずねて	を通りませんか？」

	船長、顔を出す		
207	船長、答えて となりの船を指さす船長		船　長「この船はフランスへ行くんだ。ボン ベイ行きなら、あの船がそうだ」
208	ピーター、帽子を取って丁寧に あいさつする		ピーター「ありがとうございます。船長」
209	ピーター、セーラ顔を見合せて にっこりする		
210	↓積み荷をする船、汽船の全景 ←C―PANすると船員、セー ラ、ピーターがいる		
211	船乗り、セーラから手紙を持っ て確認するように		船員Ⓓ「すると、この手紙をボンベイで警察 へ届けりゃいいって訳かい」
212	真剣に頼むセーラ ピーター、セリフ言いながら 手前にくる		セーラ「はい、なんとかお願いします」 ピーター「船員さん、この人は」
213	ピーター、ちゃっかりと船員の		ピーター「インドで亡くなったお父さんの事を、

	隣に座る	調べようとしているんだ」
214	パイプと、手紙を持つ手 ↑PAN・UPする 考える船員、セーラを見つめて	ピーター(off)「手紙はその為なんだよ」 船員Ⓓ「ふうむ、なんだか気の毒な事情がありそうだな」
216	船員をみつめるピーター	
217	船尾ゆれる、ユニオンジャックの旗	
218	二歩近づき、船員をみつめるセーラ、真剣、思わず手を組む	
219	セーラを見つめる船員	
220	船員、セーラの方に向き直り	船員Ⓓ「よしきた、そう言う事なら」
221	喜色が浮かぶセーラ やったねのピーター	船員Ⓓ「この俺が間違いなく引き受けたぜ」
222	セーラ、船員に近づく	セーラ「うわ〜」

	A・C		セーラ「ありがとうございます」
223	セーラ、船員の手を取ってしゃがむ、喜こぶピーター立ち上がり		
	A・C		
224	ピーター、ジャンプして二人のまわりをぐるぐるまわる		ピーター「やったあ！ やったあ」
225	うれしい笑顔のセーラ		
226	→PAN 碇泊している船 PAN→ キラキラと輝くテムズ河が美しい……上手にロンドン塔も見えている		
227	入りくんだ支流にかかる橋 橋上を行き交う人々		S・E （ボーッ!! ボーッ!!）
228	二人「はっ」となって振り返る 橋のランカンに寄るセーラ ピーターも続いてランカンへ		セーラ「……アッ！ インド行きの船よ!!」

229	出航していく船		S・E（ボッー）〜〜〜〜
230	煙突からもくもくと煙、汽笛の蒸気　FOLLOW←		
231	ランカンに登り手を振るピーターとセーラー――出て行く船		
232	出航していく船　FOLLOW←		
233	手を振る二人　風になびく髪の毛		セーラ「お願いしーますー!!」
234	奥へ行く船		
235	橋の上で手を振る二人		ピーター「たのんだよ!」
236	除々に消えていく煙		
237	橋上で手を振る二人　手をおろし、ピーター下におりる		

238	水面にうつる二人が揺れている ピーター、セーラの方を見る	
239	ピーターを見るセーラ セーラ、礼を言う	ピーター「よかったですね、これでなんとかお父様のことが判るかも知れませんよ」 セーラ「ええ……ありがとうピーター」
240	セーラ明るくなり、ピーターを見て ピーター、帽子を目深にかぶり直して照れを隠しながら、足許の籠を取るためしゃがむ、ピーター	セーラ「……私、お金もないし、あなたがいなかったら、とてもこんな事、思いつかなかったわ」 ピーター「へへ……なあにお嬢さん、少しでも役に立てれば」
	A・C	
241	籠を取り上げて、手前に歩く ピーター ピーター、顔を赤くして	ピーター「それで……いいんですよ」 セーラ「有り難とう、ピーター」 ピーター「え……ええ、へへへ……」
242	横町 家の間に見えるテムズ河	
243	急ぐ二人の足　FOLLOW↘	セーラ(off)「ネ……ピーター……」

		ピーター「え……？」 セーラ「私、ミンチン先生から、お父様が亡くなったって聞いた時、とても信じられなかったの、いいえ、今でも信じたくない気持ちで一杯なの」
244	明るく話しながら行く二人 ↑FOLLOW	ピーター「ええ……よく判りますよ、その気持ち」
245	街 PAN・DOWN↓	セーラ(off)「それで、あの時考えたの……もし、お父様が亡くなった外て報せがなにかの間違いだとしたら……」
246	二人がいく SLIDE→	ピーター「え……？」 セーラ「間違いだとしたらの事よ……私があの学院を出てしまったら、お父様は、どうやって私を探すの……」
247	明るく顔で行くセーラと ピーター FOLLOW→ ピーター、感心して	セーラ「だから私、どんな辛い思いをしてもあの学院を出てはいけないって、そう自分に言い聞かせていたのよ」 ピーター「へえ……！」
248	茂った樹 ↓PAN・D	ピーター「そうだったんですか、オレ……ミン

	249	250	251	252	253
くるりと振り返り止るセーラ ピーター荷物を置く。(手が疲れたのです)	ピーター、思わず聞き返す くるりとふり返るセーラ 明るい顔で空を仰ぐセーラ	空を飛ぶ鳩 明るく話すセーラ	ぼう然と見つめるピーター	空を見つめているセーラ、ゆっくりと振り返るセーラ 明るい顔である、空を行く鳩	鍋から吹く湯気、夕方の空が見える台所
チン院長の下で辛い思いを我慢してなきゃならないのかって、ずっと気になって……」 セーラ「有り難うピーター、でも、これでもうひとつあの学院で我慢して行く支えが出来たわ」	ピーター「……支えですって……?!」 セーラ「ええ……ポンペイからお父様のことを知らせてくれる手紙が届くまで、私、あの学院にいなくてはいけないの……」	セーラ「……せめて、そう思う事で私はあらゆる苦しさに耐えて行けると思うの…」	ピーター「……お嬢様……!」		モーリー(off)「云い訳を云うんじゃないよ!」

254	怒るモーリー		モーリー「これだけの買物に、夕方までかかる筈ないじゃないか……！」
255	うなだれていくセーラ、謝まる		モーリー「一体どこで遊んでたんだい……！」 セーラ「御、御免なさい」
256	ジェームス来て、ジャガイモをとり上げて感心する モーリーに見せるジェームス プンと横を向くモーリー		ジェームス「オ……でもこりゃ仲々いい品物を仕入れて来ただ!!」 モーリー「フン……！　品物さえよけりゃいいってもんじゃないよ！」
257	鍋の前に来るモーリー フタをもち上げる、フタを落とす		モーリー「ふん、お前夕食は抜きだよ、私達が忙しい思いをしたバツだよ！——早く食堂の準備にかかるんだよ！……あちちち……」
	A・C		
258	すねに当るフタ		モーリー(off)「あ痛……た」
259	すねをおさえて痛がるモーリー 見つめるセーラを見ておこる セーラいそいで扉の方へ行く 痛がるモーリー		モーリー「痛た……！　うーん、いつまでそこにいるの……早くするんだよ……！」 セーラ「ハ……ハイ」 モーリー「痛たたた！……」

260	夜のミンチン学院 地下の灯りが一つ二つと消えていく		
261	暗い一階の廊下		
262	廊下、二人、ローソクを持って話している		ベッキー「では、お嬢様……お父様のこと早く判るようにお祈りしますわ……」
263	セーラ、にっこりとして、お礼を言う 二人の表情は明るい		セーラ「ありがとう、ベッキー！」 ベッキー「おやすみなさい、お嬢様！」 セーラ「ベッキーもおやすみ」
264	夜のロンドンの屋根、屋根 セーラの屋根うら部屋が明るくなる（中O・L）		
265	写真を見つめているセーラ T・U		
266	写真を見つめるセーラ		
267	―間―　メルが出て来てセーラ		メル「チュチュチュ」

	を見る はっとなって振り返るセーラ		セーラ　「……メル……！」
268	メル、セーラを見て、口をもぐもぐさせ手をこする		
269	にっこり笑うセーラ 静かに立ち上る		セーラ　「……まだ起きていてくれたのね…… 私、お話しすることがあるわ……」
	A・C		
270	静かに座るセーラ		セーラ　「……私ね、……今とても希望に燃えているの……」
271	手を止め見つめるメル		
272	う〜とのぞき込むセーラ 微笑をして		セーラ　「……なぜって……、そうするしか、 私には仕方がないからよ……メル…… 判ってくれて……？」
273	首をかしげるメル		
274	満足げに微笑するペッキー 毛布をかぶって横になる、明るい顔 T・U		ペッキーⓂ「よかった……不幸せなあの日から、 お嬢様の声が、こんなに明るく響いた

	目をつむっていく	のははじめてだわ。ほんとによかった……」
275	パン屑を床にこぼすセーラ、にこにこしながら、先の方を見て立ち上る	セーラ「チュチュ、チュ……!!」
276	見上げているメル ピクリとなるメル、チョロチョロ前に来て手をこねるメル 直ぐに小さな屑を食べる	S・E（静かに椅子にかける音）
277	見つめているセーラ メル、大きな屑をかかえ、転がるようにして去る、くすくす笑って見つめるセーラ セーラ前を向いて写真を取り上げる	
278	写真のUP O・L	
279	写真を凝っと見つめるセーラ O・L	セーラⓃ「あのお手紙でお父様の消息を掴むことが出来るでしょうか……

280	O・L ろうそくをなめてセーラ		私には、それが不安の中に芽生えた唯一の希望の芽と思えたのです」
281	O・L 見つめていた写真を胸に抱きしめて宙を見上げるセーラ F・O		

おわり